

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	中下咲帆 (なかしたさきほ)
所属・資格 (※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載)	人間科学研究科 修士過程 1 年
発表年月 または事業開催年月	2024 年 3 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	言語処理学会 2024
発表者 (※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	中下咲帆, 藤後英哲, 菊池英明, 藤倉将平, 則竹理宇
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	大規模言語モデルを用いた傷害事件の関連法律予測
<p>発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)</p> <p>【発表の概要】</p> <p>大規模言語モデル(以下, LLM)の発達に伴い, 高度な知識を必要とする法的な業務の自動化が期待されている。本研究では, 特に法律相談場面に注目し, 法的な相談に回答するための関連法律予測に取り組んだ。法的な相談事例と関連法律のデータセットを用いて GPT-3.5 をファインチューニングした結果, 提案モデルの F1Score が GPT-4 に比べて僅差で下回った。また分析の結果, 刑法 208 条の予測においてはベースラインを上回る正答数を示した一方, 刑法 204 条についてはベースラインの正答数を下回った。学習時に使用したデータセットやハイパーパラメータの影響により, 提案モデルが過学習を起こしている可能性が示唆された。</p> <p>【成果】</p> <p>同じ法律分野で研究されている方々から様々な意見を頂くことができた。データ収集に関して民事に比べ刑事に関するデータがクローズドである点での課題や, 手法に関して RAG や分類モデルとの組み合わせが有効ではないかといった議論をした。今後の研究に活かしていきたい。</p> <p>【URL】</p> <p>https://www.anlp.jp/proceedings/annual_meeting/2024/pdf_dir/P2-25.pdf</p>	

※無断転載禁止